

“みんなで地域共生のむらづくり”

平成31年度（令和元年度）

事業報告書

新型コロナを乗り越えよう！
みんなで一緒に



ふれあいネットワーク



社会福祉法人 西原村社会福祉協議会

平成 31 年度(令和元年度) 社会福祉法人西原村社会福祉協議会事業報告書

目 次

| | | | |
|-------------------------|------|---------------------------------|-------|
| 第1 基本報告 | 2 | (7)子育て支援事業の推進 | 13 |
| 第2 重点実施事項 | 3 | (8)介護保険関連事業 | 13~19 |
| 第3 事業実施状況 | 4 | ①介護保険事業(居宅介護支援事業・通所介護事業・訪問介護事業) | |
| (1)地域福祉活動推進事業 | 4~5 | ②地域支援事業 | |
| ①地域生活支援体制整備評価事業 | | ③障がい者自立支援事業 | |
| (のぎくふれあい相談センター) | | ④障がい者(児)福祉サービス | |
| ②住民グループ支援事業 | | (9)地域包括支援センターの運営(別紙報告書①にて報告)... | 19 |
| (地域介護予防支援事業) | | (10)地域支え合いセンターの運営(別紙報告書①にて報告) | |
| (2)高齢者福祉事業の推進 | 5~6 | (11)県社協補助事業 | 20~21 |
| ①健康づくり生きがい活動の推進 | | ①生活福祉資金貸付事業 | |
| ②高齢者在宅福祉事業 | | ②地域福祉権利擁護事業 | |
| ③育成支援 | | ③生活困窮者等自立相談支援事業 | |
| (3)障がい者(児)福祉事業の推進 | 6~7 | (12)広報活動 | 21 |
| ①当事者団体活動の援助 | | (13)民生児童委員協議会・相談員連絡協議会... | 21~22 |
| ②社会参加活動の推進 | | (14)共同募金運動の推進 | 22~24 |
| (4)児童・青少年福祉事業の推進 | 7~9 | (15)日本赤十字社事業の推進 | 24 |
| ①地域における福祉教育 | | (16)阿蘇ブロック社協連合会事業 | 25 |
| ②学校における福祉教育 | | (17)法人運営・基盤強化 | 25~29 |
| ③一人親世帯の福祉推進 | | ①財源の確保 | |
| (5)住民全般福祉事業の推進 | 9~11 | ②役員会・役員活動 | |
| ①住民の福祉教育の推進 | | ③お客様相談センター(第三者委員会) | |
| ②ボランティア育成事業 | | ④情報開示 | |
| (6)地域・在宅福祉事業の推進 | 12 | ⑤職員の資質向上と危機管理 | |
| ①地域・在宅福祉事業の推進 | | ⑥地域共生のむらづくり | |
| ②援護事業の実施 | | (18)指定管理者制度 | 29~30 |
| | | (19)その他の事業活動 | 30~31 |

平成31年度（令和元年度）社会福祉法人 西原村社会福祉協議会事業報告

第1【基本報告】

社会福祉法人西原村社会福祉協議会は、地域福祉を推進する中核的な団体として、誰もが安心して心豊かに暮らすことのできる福祉のむらづくりを推進するため、「やさしい村づくりネットワークの創造」「福祉教育・ボランティア活動の推進」「生活や地域に密着した福祉サービス支援体制づくり」「社会福祉協議会基盤整備」を基本目標に、次の「重点実施事項」を柱として各種の福祉事業を積極的に展開しました。

平成31年度(令和元年度)は、震災から4年目の年で、仮設住宅の集約の動きもあり、仮設住宅やみなし仮設、また、災害公営住宅・小森団地や在宅で生活されている被災者の方々へのきめ細かな支援が重要な時期であり、地域支え合いセンターを中心に行政や関係機関との連携強化を図りつつ、生活全般に関する相談受付や個別訪問支援など、住民一人ひとりに寄り添い地域の支えあいによる活動の充実に向けた支援に努めてきました。

また、各種関係制度等の改正により、地域包括ケアシステムの構築や生活困窮者支援など、福祉制度が大きく変わる転換期を迎え、地域住民一人ひとりの生活課題を早期に発見し深刻化させないための支援体制づくりや支えあいのネットワークづくりを進めると共に、包括的な相談対応のしくみや各種地域福祉活動との連携強化に努めました。

今年1月、新型コロナウイルス感染症が日本国内でも確認され、その勢いは日本全土へと広がりました。熊本県内でも2月21日に熊本市内で感染者が確認され、これまで経験したことのない感染ウイルスとの戦いが始まりました。

第24回のぎくまつりの中止も余儀なくされましたが、特に、介護事業における福祉サービスの停止・事業所の一時閉鎖等は何としても避けなくてはならない状況の中、感染防止策の取組みの徹底など全職員が共通認識を持ち対応してきました。現在、感染の拡大は減少傾向にありますが、引き続き感染防止策の徹底を図りながら「安全に利用できる介護等事業」、「安心して相談できる社会福祉協議会」づくりに取り組んでいきます。

第2【重点実施事項】

1. 地域福祉推進による福祉コミュニティづくり

地域の福祉課題の把握に努めると共に、「ふれあいいきいきサロン・スーパーサロン」や、「やまびこネットワーク(見守り支え合い)」活動など、地域住民の主体的な活動の支援に努めた。また、地域住民や行政、関係機関との連携強化や後方支援の充実を図り、地域の福祉力[福祉課題の解決力]の向上と福祉コミュニティづくりに努めた。

2. 生活支援の体制整備と強化

新たな生活支援・介護予防サービスの検討実施により、地域の支え合いの体制づくりに努めると共に、地域生活のあらゆる場面において、一人ひとりに寄り添った支援(伴走型)に心がけ、住民それぞれが共に支えあい担いあいながら心豊かに生活できる地域づくりの推進に努めた。

3. にしはら地域包括支援センターの運営

地域包括ケアの中核拠点として、総合的な生活支援の窓口となり、地域住民の心身の健康の維持、生活の安定、保健・福祉・医療の向上と増進のために必要な援助、支援に努めた。

4. 西原村地域支え合いセンターの運営

熊本地震により被災された住民の安心した日常生活を支え、生活再建と自立を支援するため、総合相談受付・訪問活動・見守り・生活支援・地域交流の促進・介護予防など総合的な支援に努めた。

5. 総合ボランティアセンターの機能強化

災害ボランティアセンターの機能を検証しつつ、多様な災害ニーズへの支援対応に努めた。また、ボランティア活動や住民参加活動の支援及び福祉教育の推進を図りつつ、住みよい地域づくりを担う人づくりのため、多様な福祉活動やボランティア活動等へ参加するきっかけづくりに努めた。

6. 介護保険関連事業の円滑な推進

より社会福祉協議会らしい介護保険関連事業を展開するため、地域福祉部門との連携を図り、地域の社会資源やインフォーマルなサービスを活用し、各種介護サービスの充実や職員の質の向上を図るなど総合的な支援体制づくりに努めた。

7. 組織経営・管理体制の整備

社会福祉協議会としての公共性と公益性に根ざした経営理念の基、各事業活動を進めると共に、新たなニーズ・課題等の解決に向けた効果的な地域福祉活動の研究・改善に取り組み、質の高いサービスの提供に努めた。

第3【事業の実施状況】

(1)地域福祉活動推進事業

| 実施項目 | 事業目的 | 推進内容 | | | | | | | | | | | | |
|--|--|--|------|--------|------|----|------|----|-------|----|--------|----|--------|----|
| ①地域生活支援体制 整備評価事業 (のぎくふれあい 相談センター) | 各種相談事業（総合相談）により、住民の福祉ニーズの把握や関係機関とのネットワーク形成に努め、福祉サービスの充実・生活支援体制づくりを進めました。 | <p>1. のぎく・ふれあい相談センターの開設 ※(別紙報告書 P.1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種総合相談事業の周知 (各世帯に年間相談予定表チラシの配布、毎月の防災無線の活用等) 相談員の研修 (相談員連絡協議会事業で実施すると共に連携強化に努めた。) <p>① 専門相談（午前9時～12時まで）年間42日開設</p> <table border="1"> <tr> <td>法律相談</td> <td>27件</td> <td>行政相談</td> <td>2件</td> <td>人権相談</td> <td>0件</td> </tr> <tr> <td>不動産相談</td> <td>3件</td> <td>障がい者相談</td> <td>0件</td> <td>心配ごと相談</td> <td>0件</td> </tr> </table> <p>専門相談日の相談合計件数 32件</p> <p>②常設相談（介護、認知症、福祉資金、権利擁護、福祉用具、生活困窮、ボランティア活動等日々相談に応じている。）</p> | 法律相談 | 27件 | 行政相談 | 2件 | 人権相談 | 0件 | 不動産相談 | 3件 | 障がい者相談 | 0件 | 心配ごと相談 | 0件 |
| 法律相談 | 27件 | 行政相談 | 2件 | 人権相談 | 0件 | | | | | | | | | |
| 不動産相談 | 3件 | 障がい者相談 | 0件 | 心配ごと相談 | 0件 | | | | | | | | | |
| ②住民グループ支援事業 (地域介護予防支援事業) | 支援を必要とする高齢者等に対して、地域住民等の訪問活動や自主グループ活動の育成支援に努め、健康で安心して地域生活が送れるよう支援しました。 | <p>1. ふれあいいきいきサロンの充実強化(村内33地域で実施)※(別紙報告書 P.2～3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ふれあいいきいきサロン年間開催回数（33ヶ所691回） (内訳：スーパーサロン12か所444回、通常サロン21か所247回) ふれあいいきいきサロンの開催実績による活動助成支援 子ども合同サロンの取り組みへの助成（6地域・宮山、風当、万徳、古閑、小園、袴野） 各地域のサロン活動を広く紹介するため「サロン新聞(第9号)」の発行(全戸配布) いきいきボランティア養成講習会の開催 9/4 (26名受講) サロンキーパーソン会議及び研修の開催 4/8 シルバーボランティア全体会の開催と各種研修会等への参加支援 (講演会：排泄トラブルについて5/31、これからの地域を考える1/29) シルバーヘルパー1日研修 9/27（荒木観光ホテル84名参加） のぎく荘デイサービス運動会や、のぎくまつり事前の演芸大会予行練習のボランティア運営協力※(別紙報告書 P.4) <p>2. 小地域の見守りネットワーク(やまびこネットワーク)訪問活動</p> <ul style="list-style-type: none"> サロンを通じたネットワークの推進 訪問対象者208名、支援者131名、訪問回数(延)16,716件 | | | | | | | | | | | | |

| | | |
|--|--|---|
| | | <p>地域ごとネットワーク会議の開催 12 地区 24 回 ※(別紙報告書 P5~6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 39ヶ所でカードを使用した訪問活動と、活動実績に応じた助成の実施 <p>3. 福祉協力員活動の充実 (令和 2 年 1 月 84 名委嘱) ※新任 39 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体研修会の開催 2/12 (のぎく荘) ・ 各集落ごと福祉課題の把握や訪問活動の推進 (一人暮らし高齢者、高齢者夫婦世帯、要介護者世帯など) ・ 地域ごと要援護者緊急連絡カード(安心ネットワーク)の配備推進 |
|--|--|---|

(2)高齢者福祉事業の推進

| 実施項目 | 事業目的 | 推進内容 |
|---------------------|--|--|
| ①健康づくり 生きがい活動の推進 | 高齢者の生きがいと健康づくり、親睦融和を目的に、各種スポーツ大会・趣味活動、社会参加活動の推進に取り組みました。 | <p>1. 健康づくり・生きがい活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉球技大会 (グラウンドゴルフ、ペタンク) 10/15 村民グラウンド(197名参加) ・ 老人クラブと共同で趣味活動の普及に努めた。 (グラウンドゴルフ、ペタンク、男性料理教室、芸能大会の企画等) ・ 中学校での伝承遊び交流会 9/10 (75名参加) テーマ【作る・遊ぶ・学ぶ】内容 (竹トンボ、水鉄砲、指編み、お手玉、郷土料理、グラウンドゴルフ、ペタンク、西原弁講座) ・ 老連主催球技大会への支援 3/17 (新型コロナウイルス感染防止のため中止) ・ シルバーボランティアの発掘、育成、支援に努めた。 (養成講習会の開催、定例役員会・全体会の開催、リーダー研修、日帰り研修の開催等) ・ ミニデイサービスやいきいきサロンへの参加促進に努めた。 ・ 健康づくり推進スポーツ大会 11/12 (老人クラブ連合会・住民課共催) (西原村民体育館にて 227名参加) ・ シルバー人材センターとの連携強化に努めた。 |
| ②高齢者在宅福祉事業 | 関係機関との連携により、一人暮らし高齢者、後期高齢者の方々の、在宅での生活の充実と維持向上に努めました。 | <p>1. 高齢者在宅福祉事業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 金婚式お祝い(5組) 9/11 額入記念写真の贈呈 ・ 90才以上の高齢者お祝い訪問 9/25.26.27 (172名中、在宅 86名を会長訪問) ・ プラチナ婚(3組)、ダイヤモンド婚(14組)のお祝い(2/23 のぎくまつりが中止となったため、ご自宅を訪問し記念写真を撮影し贈呈を行った。) |

| | | |
|-------|--|---|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・訪問活動（70才以上の一人暮らし 97名）により生活状況の把握に努めた。 ・村長一日民生委員（民生委員の日行事）5/20（村長 小森西、高遊地域訪問 一人暮らし高齢者の方を村長、民生児童委員、行政、社協で訪問 ・安心ネットワーク（緊急連絡票）の定期情報確認 |
| ③育成支援 | 高齢者の生活の質を高めるため、老人クラブ活動と連携を図り、各種活動の充実・強化に努めました。 | 1. 老人クラブ活動への援助 <ul style="list-style-type: none"> ・総会 4/28 ・定例役員会（毎月5日のぎく荘） ・村老人クラブの拠点として、自主運営を側面的に支援。 ・各単位クラブ(22クラブ)への相談援助や、県・阿蘇郡市老連リーダー研修、新任会長研修、会員一泊研修、スポーツ大会等への支援 ・老連球技大会の開催支援や、高齢者の交通安全運動・地域ごと環境美化活動の推進支援、救急法講習会や節電講座の実施、世代間交流の支援 ・第2回西原村老連「復興・ふれあい芸能大会」の開催支援 4/28 構造改善センター大研修室(243名参加) 34演目 90名出演 ・第35回熊本県老人クラブ大会 10/16（熊本市） ・阿蘇郡老連パークゴルフ大会 10/23（産山村）20名参加 ・赤い羽根共同募金（歳末助け合い）村老人クラブ連合会募金 1,264,359円 ・会員増強運動の推進や、老人クラブ傷害保険の加入促進と傷害事故対応の支援 ・災害救援拠金による全会員向けジャンパーの制作支援 |

(3)障がい者・児福祉事業の推進

| 実施項目 | 事業目的 | 推進内容 |
|-------------|------------------------------|--|
| ①当事者団体活動の推進 | 障がい者関係の団体活動支援や自主運営の支援に努めました。 | 1. 村身体障がい者福祉協会の側面的援助 （総会 4/16、役員会(3回)、会員研修 12/6、各種活動支援、新会員の募集等） |
| | | 2. 脳血管障がい者の会(りんどうの会)の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・定例行事の開催 パンづくり体験、泥染め体験、野外活動（りんご狩り・ぶどう狩り）など |
| | | 3. 障がい者の自立支援に向けた地域活動支援センターたんぼぼハウスの運営支援 <ul style="list-style-type: none"> ・各種活動の理解促進を図るための広報支援や事業推進のための活動助成 ・子どもや高齢者との定期的な交流の場づくりを支援しつつ意識高揚に繋がるよう努めた。 |
| | | 4. 各施設や作業所等との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・訪問活動や情報交換、イベントへの協力支援、製品の活用とPR |

| | | |
|------------|---|--|
| | | <p>5. 聴覚障がい者支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手話入門講座の開催 3月の火曜日 4日間 ※新型コロナウイルスの影響で中止 ・年間を通した手話サークルの活動支援（毎週火曜日 19:30~21:00）5~8名参加 <p>6. 療育事業への取り組み</p> <p>障がいを持つ子どもや、そのご家族が安心して豊かな在宅生活が送れるよう療育事業の取り組みを検討しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会及び関係者による療育事業の検討会 7/4.12/23.1/30 ・児童発達支援事業や放課後等デイサービス事業についての視察研修の実施 5/22（視察先：合志市社会福祉協議会） ・相談支援従事者初任者研修及び児童発達支援管理責任者基礎研修受講 2名(4日間) ・発達障がいの理解と関わり方(11/28 西原中学校保護者向けセミナー)※インフルエンザの流行により中止 |
| ②社会参加活動の推進 | <p>ノーマライゼーションの理念のもと、障がい者の方々が地域での生活や社会参加など、あらゆる場面で、自立した豊かな生活を送れるよう支援に努めました。</p> <p>また、障がいに対する正しい知識の普及や、日常的なふれあいを通した相互理解を図り、バリアのない地域づくりを推進しました。</p> | <p>1. 社会参加活動の支援</p> <p>県、郡、村身障者スポーツ大会、グラウンドゴルフ大会等に参加しやすい環境づくりに努めた。(リフト車送迎、引率、賞品等の提供など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県グラウンドゴルフ大会 5/25 (阿蘇市農村公園あぴかグラウンド) ・阿蘇郡グラウンドゴルフ大会 10/23 (休暇村南阿蘇グラウンドゴルフ場) ・県ペタンク大会 11/22 (県総合運動公園) ・阿蘇郡市体育大会 10/11 (南小国町市原小学校体育館) ・県身障者歌謡祭 12/4 (火の君文化ホール) ・会員交流ニュースポーツ大会等の開催 1/26 のぎく荘 (19名参加) ・身障連会員地域懇談会 10/29.10/30 (仮設集会所 1ヶ所、地区公民館 3ヶ所) ・地域・学校・保育園・イベント等に積極的に参加し、ノーマライゼーションの理念について村民の意識向上に努めた。また、福祉車輛(リフト車)や福祉機器等の貸し出し、相談業務の充実に努めた。 |

(4)児童・青少年福祉事業の推進

| 実施項目 | 事業目的 | 推進内容 |
|----------------|--|--|
| ①地域における福祉教育の推進 | 地域の中でのボランティア活動や各種体験活動等を通して、子どもたちが地域を知り、自分に出来ることに気づ | <p>1. ボランティアスクールとしての受け入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河原小学校 3年生 9名(11/22、2/19) 2日間 ・2/6(山西小学校ボランティア委員会 13名) |

| | | |
|-------------------------------|--|--|
| | <p>き・発見しながら、福祉の心が育ち広がるよう支援しました。また、それを支える様々な関係機関や地域との連携強化を図り、効果的な事業活動の推進に努めました。</p> | <p>2. 福祉体験学習(ワークキャンプ)の実施</p> <p>①のぎく荘訪問型</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「認知症について学ぼう」河原小、山西小3年生 8/6(台風のため中止) ・「聴覚障がいについて学ぼう」河原小、山西小4年生 8/2(14名) ・「高齢者の疑似体験」河原小、山西小5年生 8/9(19名) ・「視覚障がいについて学ぼう」河原小、山西小6年生 8/1(12名) <p>②みどりの館及びグループホームみどり 8/22(6名)</p> <p>③くまもと長寿苑そよ風 8/21(6名)</p> <p>④地域ふれあい探検隊 8/7(7名)</p> <p>⑤のぎく荘ふれあい交流会 河原小、山西小5年生 8/9(19名)</p> <p>3. イベントでの体験活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11/17 ふれあいまつりでの街頭募金活動 ・2/23 のぎくまつりが中止となったため、デイ利用者介助や各種コーナーの運営協力、障がい者作業所製品販売体験、共同募金への協力のお願いや炊き出し体験など(西原中学校1年生全員と2年生有志の参加)と、保育園児や小学生との演芸共演プログラムによるふれあい交流ができなかった。 <p>4. 地域で世代間のふれあう場づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども合同サロンの開催支援 6ヶ所 <p>5. 職場体験学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西原中学校2年生職場体験 9/17~9/20(2名) |
| <p>②学校等における福祉教育の推進</p> | <p>学校・保育園や関係機関と連携を図ると共に、ボランティア協力校の指定事業などにより、福祉教育のより一層の進展を図りました。</p> | <p>1. ボランティア協力校指定事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両小学校 平成2年度~4年度 県社協指定、平成5年度~村社協継続指定 ・中学校 平成5年度~県社協指定、平成8年度~村社協継続指定 <p>《主な活動内容》</p> <p>学校内外の環境美化活動(クリーン活動、花いっぱい運動、リサイクル活動等)、あいさつ運動、共同募金やユニセフへの理解と協力活動、地域の高齢者を運動会、フェスタ、文化祭等へ招待、各種生産活動(もち米、野菜、花など)を福祉施設に贈り交流活動、やまびこふれあいだより、地域の高齢者を訪問(手作り品や花持参、昔話や地域の歴史調査など)、各種収集活動(使用済み切手、書き損じハガキ、ペットボトルキャップなど)、自然環境調べ、JRC活動(青少年赤十字)など</p> <p>2. 学校、PTA、地域、教育委員会、関係機関との連携による活動推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア協力校、関係機関との連絡会 6/14 |

| | | |
|-------------|--|---|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・小、中学校、保育園との連携を図り、高齢者、障がい者とのふれあいの場づくりに努めた。 ・やまびこふれあいだよりの発送（小、中学校の児童生徒により一人暮らし高齢者への「ふれあいだよりの」の発送） ・学校募金(小中学校)の理解と協力に努めた。 12月（各校で自主募金箱作製） ・活動に関する写真パネルの展示（学校内、のぎく荘など） ・伝承遊び交流会 9/10 ・小学校卒業記念品（図書カード）の贈呈 3/24 卒業式にて 79名へ |
| ③一人親世帯の福祉推進 | <p>当事者世帯の把握に努めると共に、当事者の方々への情報発信やふれあいの場の提供により、横の連携を深めながら当事者の組織づくりを推進しました。</p> | <p>1. 当事者支援と組織づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人親世帯の当事者の会・組織づくりを進めると共に、行政との連携や民生児童委員など地域関係からの情報収集及び情報提供に努めた。 ※令和元年度（母子32世帯、父子2世帯） ・ふれあい行事や交流会等についてのアンケート調査の実施 ・ふれあい行事 9/2（熊本市動植物園とバイキング料理）17名参加 ・ふれあい海水浴（道の駅鹿北・親水プール、ピザづくり体験等）24名参加 ・クリスマス交流会の開催 12/23（阿蘇ミルク牧場バイキング昼食と、クリスマスケーキプレゼント 21名参加 |

(5)住民全般福祉事業の推進

| 実施項目 | 事業目的 | 推進内容 |
|-------------|---|--|
| ①住民の福祉教育の推進 | <p>各種事業活動においての広報啓発活動の充実を図り、地域福祉活動やボランティア活動に対する理解促進に努めました。</p> | <p>1. 住民の福祉教育の推進</p> <p>各種団体の集会等に積極的に出席し地域福祉事業への理解促進に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉講演会の開催（成年後見制度について） ・元気ハツラツ講座（団塊の世代向けシニアカレッジ）の支援 <p>2. 啓発・広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地域福祉活動や災害ボランティアセンター支援活動、共同募金(10月)など、様々な事業活動を通じて住民の理解と意識高揚を図った。 ・各種イベント(ふれあいまつり街頭募金等)を通じて福祉活動やボランティア活動に関する啓発活動に努めた。 ・地域福祉センターを村民に積極的に活用してもらい意識高揚に努めた。(ロビー掲示物の充実や広報資料、冊子の配置、各種会合等の積極的利用、入浴、趣味の教室、習字・英会話・ダンス教室など) |

| | | |
|---------------------------|---|---|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・広報活動・社協だより(広報西原)に福祉活動情報やボランティア活動情報の掲載 <ul style="list-style-type: none"> ・のぎく荘だより年2回 ・パンフレット、チラシの随時発行 ・防災無線、マスコミの活用や、社協独自のホームページ、Facebook、ブログ等でのPRに努めた。 ・地域行事や各種団体、公民館、学校、保育園、企業等へ各種の福祉情報、資料、資源の提供に努めつつ、地域の様々な集いの場づくりの支援を行った。 ・貸出備品等一覧表を作成、社協だより等で広報を行い地域活動などで有効に活用していただくようPRに努めた。 ・福祉体験発表や障がい者作業所の製品展示販売、各種体験コーナー（炊き出し、めん打ち、もちつき、マイマスクづくり、缶バッチ、さき織、ガラスドームペンダントづくり）など、のぎくまつり内で実施の準備を進めていたが新型コロナウイルスの影響により中止となった。 <p>3. 小地域の福祉活動拠点整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミニデイサービスやふれあいいいきサロン、スーパーサロンをはじめ、身近な地域で住民の方々が気軽に集える場所の整備や集まりやすい環境づくりの支援に努めた。 ・「災害備蓄品等整備助成事業」の実施 <ul style="list-style-type: none"> 各地区の公民館等へ災害時に必要な資器材及び備蓄品の整備助成を行い、地域防災の拠点としての機能整備、支援に努めた。(助成決定交付 17 地区) |
| <p>②ボランティア育成事業</p> | <p>西原村内の福祉、環境、教育、文化などの広い分野のボランティア活動を把握すると共に、活動の更なる推進・拡大を図りました。</p> <p>また、災害ボランティアセンター運営マニュアルの検証と改善を進めつつ、ボランティアの発掘育成に努め、災害にも対応できる総合的なボランティアセンターとしての機能充実に取り組みました。</p> | <p>1. ボランティア連絡協議会の自主活動の援助 ※(別紙報告書 P.7~8)</p> <p>(総会、役員会、研修、相談支援など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア連絡協議会総会 6/18 (グループ及び団体(40)、12 個人) ・各ボランティア団体及びグループの活動状況の把握に努め、必要に応じた支援に努めた。 ・連絡協議会との連携により第 24 回のぎくまつり開催に向けて準備(会議等)を進めていたが新型コロナウイルス感染症のため中止となった。 ・熊本県ボランティア連絡協議会への加入(県ボラ連総会 5/21) ・ボランティアだよりの発行 2 回 <p>2. ボランティア活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアニーズの発掘 <ul style="list-style-type: none"> 広報、啓発活動によりボランティア活動に関する情報を周知、具体的な活動を紹介しながら、ボランティアの募集、ニーズの発掘に努めた。 ・各種ボランティア活動体験プログラムにより、きっかけづくりの推進を図った。 |

- ・企業ボランティアの推進
法人募金協力 110 社、募金協力店 13 件、施設利用、物品寄付、労力、技術の提供によるボランティア推進に努めた。
- ・在宅福祉サービス等のボランティア
縫製ボランティアなど定期的に活動が行われているものもあるが、デイサービス等での趣味特技を活かしたボランティア活動や、新たなボランティアの発掘育成・募集など P R 強化が必要である。
- ・ボランティア活動等の表彰（のぎくまつりが中止となったためご自宅訪問表彰）
・ボランティア活動表彰（2 個人）・高額寄付表彰（13 個人）
- ・第 12 回火の国ボランティアフェスティバル山鹿 10/26
- ・ボランティア保険等の加入事務

| | |
|-------------------|--|
| ボランティア活動保険加入助成 | 年間 A プラン 27 名 B プラン 297 名 天災 A プラン 38 名 天災 B プラン 6 名 |
| ボランティア行事用保険加入助成 | A プラン 15 件 780 名 B プラン 0 件 |
| ふれあいいいききサロン傷害保険加入 | 33 ヶ所 8,172 名 |

3. 災害ボランティアセンターとしての機能充実

- ・熊本地震時に設置した災害ボランティアセンター運営についての検証を進めつつ災害ボランティアセンター運営マニュアルの改善等に努めた。
- ・阿蘇ブロック社会福祉協議会災害時相互応援協定によるブロック間の連携会議（企画会議）や災害ボランティアセンターの運営に関する調査研究の実施
- ・各種会合等で災害時の支援活動や災害ボランティアセンターの機能や役割等について情報周知に努めた。

4. 被災地支援活動

- ・九州北部豪雨災害に伴う佐賀県武雄市社協災害ボランティアセンターへの資機材支援。9/2（ワゴン車にて冷蔵冷蔵ストッカー、飲料水、マスク、軍手、タオル、土嚢袋など）
- ・武雄市の住民有志が立ち上げた「おもやい災害ボランティアセンター」へのボランティアバス運行(3 日間) 9/29(15 名).10/5(12 名).10/6 (13 名) ※各日ワゴン車 2 台で対応、その他 9/26.10/2 の 2 日間、現地の情報収集や支援活動の調整に努めた。

(6)地域・在宅福祉事業の推進

| 実施項目 | 事業目的 | 推進内容 | | | | | | | | | | | | |
|--------------------|--|---|------|------|------|------|-------|------|----------|-----|-----------|-----|--------|----|
| <p>①地域・在宅福祉の推進</p> | <p>地域や在宅での生活の質の向上を図ることと、住民一人ひとりが豊かに生活できるようにするため、地域福祉や在宅福祉事業の推進に努めます。</p> | <p>1. 地域・在宅福祉の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人暮らし高齢者ふれあいの集い（第7回バスハイク）の開催 5/30（熊本伝統工芸館、城彩苑、加藤神社、植木すいかの里 25名参加） 福祉牛乳の配布（75才以上の一人暮らし高齢者・月平均 53名）（週2本、酪農組合中島販売店に依頼）年間 4,255本 安否確認や配達者とのふれあい、カルシウム補給等に繋がっている。 要援護世帯への緊急連絡カード（安心ネットワーク）の配備 令和元年度末までの配備状況（合計 307世帯）+11世帯 <table border="1" data-bbox="1048 491 2067 624"> <thead> <tr> <th>対象世帯</th> <th>設置件数</th> <th>対象世帯</th> <th>設置件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一人暮らし</td> <td>163件</td> <td>高齢者夫婦等世帯</td> <td>78件</td> </tr> <tr> <td>昼間高齢者のみ世帯</td> <td>60件</td> <td>障がい者世帯</td> <td>6件</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 在宅介護者の表彰 4名（のぎくまつりにて） 福祉機器の貸出し（車椅子、介護用ベッド、エアーマット、ポータブルトイレ、歩行器、シルバーカー、シャワーチェア等） 男性料理教室の支援（毎月第2土曜日開設） 第24回のぎくまつり（2/23）※熊本地震からの復興をテーマとして多種多様なボランティア支援により開催予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により中止。 <p>2. 備品等貸出事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 社協及び福祉センターの各種備品や機材を、地域活動等に有効活用していただくよう広報周知し貸出しを行った。また、地域からの要望等により必要な貸出し備品の整備に努めた。<u>貸出利用件数 106件（266品目）前年比+30件</u>（テント（大14張り、小2張り）、イベント用資機材、音響セット、プロジェクター、スクリーン、災害用移動炊飯器、発電機、テーブル、イス、各種レクリエーションゲーム用具、リフト車両、各種福祉器具など）※（別紙報告書P.9） | 対象世帯 | 設置件数 | 対象世帯 | 設置件数 | 一人暮らし | 163件 | 高齢者夫婦等世帯 | 78件 | 昼間高齢者のみ世帯 | 60件 | 障がい者世帯 | 6件 |
| 対象世帯 | 設置件数 | 対象世帯 | 設置件数 | | | | | | | | | | | |
| 一人暮らし | 163件 | 高齢者夫婦等世帯 | 78件 | | | | | | | | | | | |
| 昼間高齢者のみ世帯 | 60件 | 障がい者世帯 | 6件 | | | | | | | | | | | |
| <p>②援護事業の実施</p> | <p>初盆を迎えられる世帯へ慶弔訪問活動を実施します。</p> | <p>1. 初盆廻り（8/12）</p> <ul style="list-style-type: none"> 初盆を迎えられる世帯に慶弔訪問の実施（会長同行訪問）（令和元年度 45世帯を訪問） | | | | | | | | | | | | |

(7)子育て支援事業の推進

| 実施項目 | 事業目的 | 推進内容 | | | |
|------------|--|---|------------|-----------|-----------|
| ①子育て支援の推進 | 関係機関との連携を図り、子育て中の家庭の方々が、安心して子育てできる生活環境づくりに努めました。 | <p>1. 子育てサポートセンターのぎく ※(別紙報告書 P.10)</p> <ul style="list-style-type: none"> 協力会員の発掘、育成に努めると共に、利用会員(両方会員含む)への事業周知を図り利用促進に努めた。 <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>利用会員 108 名</td> <td>協力会員 60 名</td> <td>両方会員 19 名</td> </tr> </table> <p style="margin-left: 40px;">(令和元年度 207 件の利用) 昨年比 59 件増</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育てサポート活動に関する広報(毎月の社協だより等で随時) <p>2. 関係機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育園(子育て支援センター)との連携強化に努めた。 | 利用会員 108 名 | 協力会員 60 名 | 両方会員 19 名 |
| 利用会員 108 名 | 協力会員 60 名 | 両方会員 19 名 | | | |

(8)介護保険関連事業

| 実施項目 | 事業目的 | 推進内容 |
|--|--|---|
| ①介護保険事業 1. 居宅介護支援事業 (ケアプラン作成等事業) | 介護保険サービスの質の向上と、安定的供給を図るため関係情報の収集に努め、利用者選択を基本に、その有する能力に応じて在宅での自立を目指した良質な居宅サービス計画(ケアプラン)の提供に努めました。 | <p>地域に根ざした介護支援事業として、真心と思いやりを忘れず、ご利用者一人ひとりに心のこもった居宅介護サービスの提供に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護サービス情報の公表 介護サービス事業者として、年1回自らの介護サービスの内容や運営の状況に関する情報の公表が義務づけられている。3事業所共通(居宅介護支援事業、通所介護事業、訪問介護)・調査結果は、熊本県介護サービス情報公表センターのホームページで公表されている。 http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/ 居宅介護支援事業 介護認定を受けられた方一人ひとりの希望や心身の状態を考慮しながら、安心で充実したサービスの供給に努め、住み慣れた環境で安心して安全な生活の継続ができるよう良質な居宅介護サービス計画(ケアプラン)の作成に努めた。 令和元年度は、新規依頼件数17件(前年比-4)で、総合事業利用から介護認定へと移行されたケースが内10件。ケアマネ法定研修による件数調整や、特養、有料施設入所による終了ケースもあり前年比21件の減となった。 (ケアプラン作成件数 895 件(前年比-21 件) 月平均 76 件) <p>1. 介護保険に関する相談・助言 要援護者の相談に応じ、要援護者の心身の状況に応じた適切な介護サービスが利用できるよう、ご家族をはじめ、行政(包括支援センター)、主治医、サービス提供事業者、関係機関等との連絡調整に努めた。</p> |

2. ケアプランにおける管理、評価、サービス担当者会議の実施
3. ニーズを的確に把握し、公平、迅速な支援
4. 利用者本位の、利用者がサービスを選べるような情報の提供と苦情処理
5. 介護予防給付に関する介護予防ケアマネジメントの業務受託

総合事業(包括受託分)は月 2 名程度で前年度と大きく変わりなし。包括からの受託ケースの増減は目立たないが、総合事業利用者が要介護認定となつての新規居宅依頼喧嘩数は、月 1.2 件となっている。

そのため、介護予防ケアマネジメント業務受託分は 22 件(月平均 2 件実績)

6. 居宅介護支援利用状況 ※(別紙報告書 P.11)

| | 平成 30 年度 | 令和元年度 |
|---------|--------------|--------------|
| | 月平均利用人数 (人) | 月平均利用人数 (人) |
| 総合事業対象 | 2 | 2 |
| 要支援 1.2 | 0 | 0 |
| 要介護 1 | 3 0 | 3 2 |
| 要介護 2 | 2 2 | 2 4 |
| 要介護 3 | 1 6 | 1 1 |
| 要介護 4 | 5 | 5 |
| 要介護 5 | 2 | 2 |
| | 月平均合計 7 7(人) | 月平均合計 7 6(人) |

2. 通所介護事業 (デイサービス事業)

要介護等の状態になつたとしても、できる限り在宅で、その能力に応じて自立した日常生活が営めるよう、デイサービスセンターで日帰りの介護サービスを提供しました。

通所介護事業 ※(別紙報告書 P.12~16)

・要介護等の状態でも、できる限り在宅で、その能力に応じて自立した生活が営めるよう、デイサービスセンターでの日帰りの介護サービス(送迎、機能訓練、健康管理、趣味・創作活動、昼食、レクリエーション、入浴、季節に応じた野外ケア等)の提供を行った。また、関係機関や医療機関等と必要な連絡調整を図りながら良質な介護サービスの提供に努めた。

・通所介護計画(個別援助計画)を作成し、ケアプランに沿つた介護サービスの実施と、更に社協の特性を活かしながら良質なサービスに努め、利用者本位の選択が広がるよう支援を行った。

・年間営業日数 309 日 ・年間利用者数(延) 8,705 名(前年比+203 名)
 ・一日平均 28.1 名 稼働率 80% (-1.9%)

【内訳】

- ・要介護1 (301名) ・要介護2 (268名) ・要介護3 (83)
- ・要介護4 (42名) ・要介護5 (3名)

(年度内:新規利用者数 15名 契約解除者数 10名 すみれの会移行者数 7名)

1. ご家族・関係機関との連携状況

- ①ご利用日に、のぎく荘でご利用様がどのように過ごされたのか、ご家族様にわかるように連絡帳の記入内容の充実と徹底を行った。
- ②家庭訪問の実施 (契約やケアプランの説明、送迎の際に、ご利用者様宅へ訪問し、日頃のご自宅での様子や利用中のご様子をご家族様と情報交換を行った。
- ③ボランティア受け入れ実績 (7団体 5個人)・年間受け入れ延べ人員 64人
- ④小中高学生、保育園児との交流
 - ・ワークキャンプ両小学生受け入れ ・保育園児遊戯披露、交流
 - ・河原小学校3年生交流 ・のぎくまつり共演のための合同練習
 - ・西原中学校職場体験受け入れ ・周辺散歩での保育園児との交流
 - ・九州ルーテル学院大学、尚絅大学実習受け入れ等
- ⑤広報紙「のぎく荘だより」にて活動報告 年2回 (9月・3月)
村民の方々に活動内容をわかりやすく伝えるため、写真を多く掲載するなどの工夫を行った。

2. サービスの充実に向けた取り組み

- ①個別機能訓練の強化及び充実化
ご利用者様の身体状態及び介護度により5段階のグループ分けを行い、小グループでそれぞれの状態に合わせた活動メニューを実施。
また、作業療法士により体力測定を全員に実施すると共に、また、個別に対応することでご利用者様の心身機能の向上に努めた。
- ②行事のマンネリ化防止
「笑顔」をテーマに、各月の行事担当職員を決めて計画的に準備を進め、これまでより思考を凝らした行事開催に努めた。
- ③申し送りの効率化、プライバシー保護強化のためのインカム(無線)の活用
- ④自立支援強化のため、ご利用者様がお好きな時にご自由にいろんな趣味活動品が使えるような棚のレイアウトの工夫やご自由にお茶が楽しめるよう各テーブルに簡易ポットの配置を行った。また、ダイルーム内にコーヒーやココア、梅

昆布茶などお好きな時に召し上がっていただけるよう「カフェコーナー」を設けた。更にはご利用者の役割づくりの強化にも取り組んだ。

3. サービスの質の向上及び職員の資質向上のための取り組み

①内部研修会の実施

- ・毎日、夕方のミーティングでは、当日の問題、課題、検討事項の話し合いや内部研修を実施しサービスの質の向上とチームワーク形成に努めた。

②先進施設への視察研修及び外部研修への参加

- ・全国老人福祉施設研究会議（愛媛都）10/29~30（2名参加）
- ・認知症ケア研究大会（東京都）11/15~16（1名参加）
- ・日本通所ケア研究大会（広島県）3月※新型コロナウイルス感染症のため延期
- ・交換研修（今年度は実施無し）
- ・外部研修への参加 年7回

参加後は、月一回の全体勉強会で研修報告を行い共通認識を図った。

4. 防災対策実施状況 年間訓練実施回数1回

地震が発生し、その後「調理室より火災発生」を想定した訓練

- ・通報連絡訓練
- ・避難誘導訓練
- ・初期消火訓練

5. 新型コロナウイルス感染防止対策

ご利用日の朝の送迎時、ご利用者様ご本人の体温測定を実施。その時、体温が37.5℃以上ある場合や風邪の症状等が疑われる場合は、その日のご利用を控えていただくこととした。

- ・お迎えの時、送迎車両に乗られる前には必ずマスクの着用を行っていただき、送迎車両内では、十分な換気と消毒液の設置を行った。
- ・のぎく荘内では、すべてのご利用者様に朝昼の体温測定、定期的な手洗いうがい、手指の消毒、マスク着用の徹底を行った。
- ・ご利用中に、発熱などの症状がある場合は、速やかに医療機関において受診していただくため、ご家族様へ連絡を取り対応した。（診察の結果や病状により一定期間の利用自粛を依頼した。）
- ・毎日、ご利用者様が使用される部屋、テーブルやイス、トイレや洗面台、手すりやドアノブ、歩行器具など、館内全体の消毒の徹底を行った。
- ・密閉空間を避けるため、定時（1時間に1回5分程度）の換気を行うチェック表を作成。座席についても、対面にならないように配置換えを行った。
- ・ご家族や関係者へも感染防止について文書等でお知らせし周知に努めた。

| | | |
|---|--|---|
| | | <p>6. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、ご利用中の事故（表皮剥離）が1件発生。 <p>その他、利用中の軽度の転倒等が数件か発生しており、ご利用中は、常時付き添い見守り対応の強化を図ると共に、ヒヤリハット等を活用して原因の究明と再発防止策を検討し事故防止に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5/4(土). 7/1(月). 7/3(水). 8/15(木)は、記録的な大雨及び大型台風の接近により営業を休止とした。 |
| <p>3. 訪問介護事業 (ホームヘルプ サービス事業)</p> | <p>ご利用者が、可能な限りその能力に応じて、在宅において自立した生活が営めるよう、介護や家事の支援・相談・助言をすると共に、医療機関等と必要な連絡調整を図りながら、訪問による介護サービスを提供しました。</p> | <p>・訪問介護事業 ※(別紙報告書 P.17)</p> <p>ご利用者が、可能な限りその能力に応じて、在宅で自立した生活が営めるように、訪問介護員による入浴・排泄などの身体介護サービスや、調理・洗濯・掃除などの生活援助サービスのほか、通院介助や各種相談、助言等を行った。また、医療機関や関係機関等と必要な連絡調整を図りながら良質な介護サービスの提供に努めた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問介護計画を作成し、ケアプランに沿っての介護サービスの実施 2. サービスの質の向上を図るため事業所会議(毎月)を実施 3. 訪問介護サービスに関する各種研修会への参加と、各機関からの実習受け入れも積極的に行った。 4. <u>年間営業日数 312 日</u> ・<u>年間利用者数 213 名 (前年比+18 名)</u> ・<u>月平均 18 名</u> <p>【内訳】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要支援 1.2 (50 名) ・要介護 1 (37 名) ・要介護 2 (84 名) ・要介護 3 (15 名) ・要介護 4 (20 名) ・要介護 5 (4 名) |
| <p>②地域支援事業 (村受託事業等)</p> | <p>高齢者の自立、身体機能・生活意欲の維持向上、生活の質の確保を図るため、各種の介護予防サービスの提供や家族介護支援に努めました。</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護予防・生活支援総合事業 (通所型サービスA)「西原すみれの会」 <ul style="list-style-type: none"> ・対象となる高齢者の方々が、要介護状態となることを予防すると共に、在宅において自立した日常生活を営むことができるよう運動機能の向上を目指した専門性のあるプログラムを中心とした取り組みに努めた。また、ひまわりの会への4ヶ月移行期間後の運動機能維持に努めた。 ・生きがいつくりや認知症予防を目的とするレクリエーションなど活動種類の多様化、個別対応の充実、野外活動(月1回の外出企画)等を取り入れて実施。 <p>※(別紙報告書 P.18~P.20)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施日 (毎週月曜日、火曜日、木曜日、金曜日の営業) ※12月からは水曜日も営業 (利用者は週1~2回の利用) ・<u>年間営業日数 222 日(前年比+30 日)</u> ・<u>年間利用者数 444 名(前年比+106 名)</u> (要支援 1(24 名)、要支援 2(424)、事業対象者(396 名)) |

- ・平均利用人数(日) 7.6名 (年間延利用者数 1,671名) (前年比+349名)
- ・新規利用者 29名、介護保険への移行者 2名、利用中止者 3名

①介護予防サポーターの配置とサービスの質の向上

- ・介護予防サポーターを1日2名配置し、スケッチやぬり絵、脳トレなど、個々の生活歴や性格に合ったサービスの提供や行事のマナー化防止のための取り組みに努めた。
- ・介護予防サポーター会議を定期的に行い、改善点や今後の取り組みなどを協議する場を設けた。また、申し送りノートを活用し、職員、サポーター間での情報共有の徹底を行った。

2. 軽度生活支援事業

- ・軽易な日常生活上の援助を行うことにより、在宅の一人暮らし高齢者等の自立した生活を可能にすると共に、要介護状態への進行を防止するように努めた。
- ・年間延利用者数 56名 (前年比-2名) ・利用時間 210時間

| 月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 利用者数 | 5名 | 5名 | 4名 | 5名 | 5名 | 5名 | 5名 | 5名 | 4名 | 4名 | 4名 | 5名 |

3. ミニデイサービスの実施 (村内 28 地区・各地区年 3 回・延べ 84 回)

※(別紙報告書 P.21)

一般高齢者を対象に、各地域の公民館で、生活指導・健康診断・運動・機能訓練等を、包括支援センターや関係機関と連携を図り実施。

《内容と参加人数》第 1 回 介護予防、フレイル予防について

第 2 回 交通安全教室

第 3 回 笑う門には福来る (3 回合計 1,094 名参加)

- ・各地区のミニデイサービス終了後、地域包括支援センターや関係機関との情報提供や共有化を図った。

4. 家族介護支援事業 (のぎくの会) の実施・会員 15 名 ※(別紙報告書 P.22)

在宅で介護されている家族のニーズに対応し、各種サービスを提供することにより、介護者及び家族の心身また経済的負担の軽減、要介護者の在宅生活の維持向上が図れるよう支援に努めた。

- ・令和元年度は 7 回の会合で毎回会食しながらお互いの情報を交換(介護の現状、日頃の悩みなど)や、活動の中に一泊研修や日帰り温泉浴、舞台鑑賞、マッサージやフラワーアレンジメント体験等を取り入れリフレッシュを図った。

| | | |
|------------------|--|---|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・オムツ購入の負担軽減のため低価格での購入支援 177件 ※(別紙報告書P.23) ・福祉用具機器等の無料貸し出し 17件 |
| ③障がい者自立支援事業 | 障がい者のご自宅で入浴・排泄・食事等の介護を実施し、障がい者の自立支援に努めました。 | 1. 障がい者の在宅支援サービス(居宅介護事業) <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者ホームヘルプサービス(知的障がい4名、精神障がい2名) 延利用者数57件(家事援助254回) |
| ④障がい者(児)福祉サービス事業 | 障がい者の入浴・排泄・食事等の介護や、生活能力の向上のために必要な訓練などを実施し、自立を支援しました。 | 1. 身体障がい者のデイサービス事業(基準該当生活介護事業) <ul style="list-style-type: none"> ・本年度は、該当する利用者がなかった。 |

(9)地域包括支援センターの運営

| 実施項目 | 事業目的 | 推進内容 |
|------------------|---|---|
| ① 地域包括支援センター運営受託 | 地域の高齢者の心身の健康の保持及び生活の安定のため、必要な援助を行うことにより、保健・医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援しました。 | 1. 地域包括支援センターの運営受託 住み慣れた地域で安心して暮らせるように、介護、福祉、健康、医療など様々な面から高齢者やその家族を支えるために地域包括支援センターを運営。 <u>※詳細については、別紙報告書①にて報告</u> |

(10)地域支え合いセンターの運営

| 実施項目 | 事業目的 | 推進内容 |
|------------------|--|---|
| ② 地域支え合いセンター運営受託 | 熊本地震により被災された住民の安心した日常生活を支え、生活再建と自立を支援するため、総合相談受付・訪問活動・見守り・生活支援・地域交流の促進・介護予防など総合的な支援に努めた。 | 1. 地域支え合いセンターの運営受託 仮設住宅やみなし仮設住宅、また、災害公営住宅・小森団地や在宅で生活されている被災者の方々及び仮設退去後の要支援世帯の方々へのきめ細かな支援のため、行政や関係機関との連携強化を図り、生活全般に関する相談受付や個別訪問支援など、住民一人ひとりに寄り添い地域の支えあいによる活動の充実に向けての支援、地域住民としての暮らしを取り戻す支援に努めた。 <u>※詳細については、別紙報告書②にて報告</u> |

(11) 県社協補助事業

| 実施項目 | 事業目的 | 推進内容 |
|--------------------------------|--|--|
| ①生活福祉資金貸付事業 (県社協一部受託事業) | 世帯の経済的な自立や生活意欲の向上・社会参加の促進などを目的に、県社協が実施する福祉資金の貸付け事業の窓口となり、低所得者、高齢者、障がい者、離職者世帯等へ必要に応じた相談対応や資金貸付を行いました。 | 1. 生活福祉資金(総合支援資金)貸付事業 <ul style="list-style-type: none"> 貸付制度や資金貸付についての広報周知を行うと共に、資金借り受けの相談・受付を行った。また、民生児童委員や関係機関との連携を図り、必要に応じた訪問調査や助言、指導に努めた。 令和元年度相談問い合わせ件数 (教育支援資金 1 件) (福祉資金 0 件) (総合支援資金 1 件) (緊急小口資金特例貸付 5 件) 新規貸付件数 2 件(200,000 円 1 件、100,000 円 1 件) 継続貸付中世帯 4 世帯 生活福祉資金研修会 12/16 |
| ②地域福祉権利擁護事業 (県社協一部受託事業) | 認知症高齢者や知的障がい者、精神障がい者など判断能力が十分でない方に対して、福祉サービス利用の援助や日常的な金銭管理などの援助を行い、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう支援しました。 | 1. 地域福祉権利擁護事業 <ul style="list-style-type: none"> 県社協・生活支援員・行政との連携強化を図りながら、認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者等に対し、福祉サービス利用の相談、助言や各種手続、金銭管理等の支援を行った。 生活支援員研修会への参加 7/16 令和元年度支援件数 7 件 ・生活支援員訪問回数 (年間 63 回) 成年後見制度セミナー「成年後見制度と遺言・相続について」1/19 (24 名参加) 県社協より個別訪問(実施状況調査)の実施 7/8 |
| ③生活困窮者等自立相談支援事業 (県社協一部受託事業) | 生活困窮者等からの相談に応じ、必要な情報提供及び助言を行うと共に、自立支援のための計画作成や就労支援などさまざまな支援を一体的・計画的に行い、生活困窮者等の自立の促進に努めました。 | 1. 自立相談支援機関として総合相談窓口設置 <ul style="list-style-type: none"> 自立相談支援員兼就労支援員 1 名 (兼任) 及び、熊本地震対策による相談支援員 1 名を配置し、相談の受付、相談者のアセスメント、支援プランの作成、暫定支援などを行った。また、必要に応じて他の関係機関へつないだり同行支援などに努めた。 支援調整会議の開催 (毎月第 2 金曜日・ハローワーク阿蘇にて) ※福祉事務所単位 (6 町村合同) での協議。 令和元年度 新規相談支援件数 8 件 ・支援プランの作成件数 4 件 相談内容内訳(複合分重複) ①家計相談 4 件 ②住まい関係 7 件 ③健康関連 4 件 ④人間・家族関係 6 件 ⑤仕事、就労相談 8 件 相談窓口の周知 (広報紙掲載やチラシ作成・各種会合等) に努めると共に、関係機関との連携を図り生活困窮者等の早期発見に努めた。 |

| | | |
|--|--|--|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・生活困窮者自立支援九州・沖縄ブロック研修会(2/8 福岡市)への参加 2名 ・生活困窮者自立相談事業相談支援員研修会 2/10 <p>2. フードバンク活動(食料支援)への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品ロスの問題を生活困窮者等への支援につなげるためフードバンク活動(食料支援)の取り組みを進めた。社協だより(9月)、のぎく荘だより(3月)での広報活動及び、民生児童委員会等の各種会合で周知を行い、食料で困っている方(世帯)や福祉施設へ提供できる食品等の確保に努めた。 |
|--|--|--|

(12) 広報活動

| 実施項目 | 事業目的 | 推進内容 |
|--------|---|---|
| ① 広報活動 | 西原村の小地域ネットワーク活動やサロン活動、ボランティア活動や介護サービスの情報など、身近な福祉情報の提供や、最新の福祉の動向など福祉関連情報の提供に努めました。 | <p>1. 社協だよりの発行(毎月・全戸配布)</p> <p>広報にしはら内に福祉活動やボランティア活動の情報掲載(A4-2~6項)</p> <p>2. のぎく荘だよりの発行(年2回×2,300部・全戸配布)</p> <p>通所介護事業 訪問介護事業 居宅介護支援事業 ボランティア関係 子育てサポートセンター</p> <p>の各コーナー(A4-2項)を設け、村民に福祉の現状・情報を伝え福祉事業への参加意識を高めるとともに、各事業所ごと作成担当することにより職員の資質向上を図った。</p> <p>3. 事業ごと特集号の発行やチラシ等その他の広報(全戸配布又は各種会合の資料としても活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サロン新聞、災害ボランティアセンター、地域支え合いセンター、のぎくまつり、共同募金関係、子育てサポートセンター等 ・福祉センターロビーに、福祉情報に関する写真パネルや情報誌の掲示 ・各種会合時や地域懇談会等、また防災無線、マスコミ等の有効活用により各種福祉情報の提供に努めた。 ・社協独自のホームページ、Facebook、ブログ等でも様々な情報の発信に努めた。 <p>http://www.asoyamabiko.hinokuni-net.jp/nishihara/</p> |

(13) 民生委員児童委員協議会・相談員連絡協議会

| 実施項目 | 事業目的 | 推進内容 |
|--------------|---------------------------|---|
| ① 民協活動、相連協活動 | 地域福祉活動を推進する中で、民児協・相連協との連携 | <p>1. 民生委員児童委員協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月20日定例会、各種研修、民生委員の日行事、ふれあい行事等、生活福祉資 |

| | | |
|--|--|--|
| | <p>強化・情報交換・連絡調整など行い、地域の福祉課題・福祉情報の把握に努めました。</p> | <p>金調査連絡、心配ごと相談、学校訪問、地域活動支援、要援護者訪問活動や調査連絡、のぎくまつり準備協力、各種会合への参加等。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要援護者等の訪問調査により緊急連絡カード（安心ネットワーク）の配備推進 ・民生児童委員協議会研修 9/23~25（阪神淡路大震災記念・人と防災未来センター視察研修） ・民生児童委員活動街頭PR 5/13（秋田橋及びセブン交差点に横断幕設置） ・村長1日民生委員 5/20 村内全域を4班で一斉訪問 ・民児協視察研修受入れ 10/24（藤枝市第2地区民児協より） ・第88回全国民生委員児童委員大会(台風19号の影響により中止) ・全国一斉改選(12/1)に伴い民生児童委員推薦委員会（委員15名中8名新選任） ・退任された8名の委員へ記念品楯の贈呈 |
| | | <p>2. 相談員連絡協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・監査及び役員会 5/24 ・連絡協議会総会 6/13 ・相談員研修 <p>熊本地震からの復興の現状（役場震災復興推進課係長 山田 孝 氏） 第12回火の国ボランティアフェスティバル山鹿への参加 10/26(18名参加) 成年後見フォーラム（人吉市）11/16~17(17名参加) 司法書士による成年後見制度と遺言・相続についてのセミナー参加 講師：司法書士 高橋愛子 氏</p> |

(14)共同募金運動の推進

| 実施項目 | 事業目的 | 推進内容 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|---|---|------|----|----|---------|-------|-------------|------|---------|-----------|------|-------|-------------|------|-----|-----------|------|------|-----------|
| <p>①共同募金の推進</p> | <p>社協の自主財源の一つでもある地域福祉推進のため展開される民間募金活動「赤い羽根共同募金運動」の積極的な支援に努めると共に、熊本県共同募金会西原村分会の事務局を社協で担いました。</p> | <p>1. 共同募金運動の推進（期間：10月1日～12月31日）※(別紙報告書 P.24)</p> <p>①令和元年度募金実績 3,974,782 円(目標額 3,000,000 円) 昨年比(+159,009 円)</p> <p>★平成25年度 3,831,961 円を超え過去1番目の実績</p> <table border="1" data-bbox="1048 1214 2024 1463"> <thead> <tr> <th>募金種別</th> <th>件数</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>老人クラブ募金</td> <td>898 件</td> <td>1,264,359 円</td> </tr> <tr> <td>戸別募金</td> <td>1,717 件</td> <td>876,450 円</td> </tr> <tr> <td>法人募金</td> <td>110 件</td> <td>1,102,000 円</td> </tr> <tr> <td>職域募金</td> <td>6 件</td> <td>132,727 円</td> </tr> <tr> <td>物品募金</td> <td>11 件</td> <td>294,474 円</td> </tr> </tbody> </table> | 募金種別 | 件数 | 金額 | 老人クラブ募金 | 898 件 | 1,264,359 円 | 戸別募金 | 1,717 件 | 876,450 円 | 法人募金 | 110 件 | 1,102,000 円 | 職域募金 | 6 件 | 132,727 円 | 物品募金 | 11 件 | 294,474 円 |
| 募金種別 | 件数 | 金額 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 老人クラブ募金 | 898 件 | 1,264,359 円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 戸別募金 | 1,717 件 | 876,450 円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 法人募金 | 110 件 | 1,102,000 円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 職域募金 | 6 件 | 132,727 円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 物品募金 | 11 件 | 294,474 円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | |
|------------|--------|------------|
| 個人大口募金 | 6件 | 67,441円 |
| イベント(街頭)募金 | 3件 | 98,550円 |
| 学校募金 | 3件 | 24,980円 |
| 赤い羽根協力店募金 | 13件 | 19,808円 |
| その他の一般募金 | 8件 | 93,993円 |
| 合計 | 2,775件 | 3,974,782円 |

②募金関係の広報

- ・10月、2月の社協だよりにて募金のお願い、募金の使途等について広報、募金チラシの発行、のぎく荘ロビーに募金コーナー、正門入口にのぼり旗設置、熊日新聞への掲載(5,000円以上の募金寄付者)を行った。
- ・各種会合の中でも随時募金の使途等について説明を行い理解促進に努めた。
- ・両小学校及び中学校に共同募金のポスター掲示

③募金の推進

- ・物品募金として、本年度は村内協力企業に依頼し製作したオリジナルポロシャツを販売(275着、137,500円募金)また、クオカードと図書カードを資材として活用し販売。
- ・赤い羽根協力店の推進(13店舗の協力)
- ・街頭募金は、ふれあいまつり11/17会場にて赤い羽根バルーンやお楽しみ抽選くじ、綿菓子募金での協力をお願いした。
- ・毎回、多くの参加者に好評をいただいている「第3回赤い羽根共同募金杯フラバレーボール大会」を11/7に開催。18チーム98名が参加され共同募金のPRと協力お願いした。

④募金の配分金等

- ・平成30年度の募金実績による社協(地域配分金)への配分額 3,465,773円
- ・災害ボランティア・NPO活動サポート募金・九州(ボラサポ九州)住民支え合い活動助成金申請支援2件 200,000円

⑤表彰受賞

- ・「第58回赤い羽根空の第一便伝達式」10/1にて、中央共同募金会長感謝状受賞(西原村老人クラブ連合会)
- ・熊本県共同募金会より優秀支会分会表彰(西原村分会)

| | | |
|--|--|--|
| | | ⑥災害義援金の募集・受付 ・平成30年北海道胆振東部地震災害義援金 1件 30,000円 ・令和元年8月佐賀県豪雨災害義援金 17件 306,963円 ・令和元年台風第15号千葉県災害義援金 6件 35,707円 ・令和元年台風第19号災害義援金 16件 357,000円 |
|--|--|--|

(15)日本赤十字社事業の推進

| 実施項目 | 事業目的 | 推進内容 | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------|--|--|------|----|----|-----|-----|----------|------|--------|----------|-------|----|----|-----|--------|------------|
| ①日赤事業の推進 | 赤十字活動に賛同し、社員増強や社資募集運動、また、災害時に備えた活動を展開するため日本赤十字社熊本県支部西原村分区の事務局を社協において担いました。 | <p>1. 日赤活動資金の募集（5月の赤十字月間） ※(別紙報告書 P.25)</p> <p>①令和元年度日赤活動資金の実績 1,046,000円 昨年比(+19,900円)(+65戸)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>会員種別</th> <th>件数</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>会 員</td> <td>77戸</td> <td>155,000円</td> </tr> <tr> <td>協力会員</td> <td>1,715戸</td> <td>891,000円</td> </tr> <tr> <td>寄 付 金</td> <td>0件</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>1,792件</td> <td>1,046,000円</td> </tr> </tbody> </table> <p>・法人ダイレクトメール資金募集(県支部部分) 西原村7件 71,000円</p> <p>②会員管理台帳による全会員の管理(会員データ管理)</p> <p>③救急車両の管理整備、災害対応移動炊飯器等機材の管理、貸出し</p> <p>④AED(自動体外式除細動器)及び日赤救急物資備蓄倉庫の整備、管理</p> <p>2. 防災ボランティア育成事業</p> <p>・防災ボランティアにしはら総会 6/23 ・復習会 6/23.11/24</p> <p>・救急法救急員養成講習会 10/13.10/20.10/27(3日間)7名受講</p> <p>・のぎくまつりが中止となり、救急物資や赤十字事業パネル展示及び、災害救援炊き出し(防災ボランティア5名と中学生ボランティア合同)ができなかった。</p> <p>3. 災害義援金の募集・受付</p> <p>・平成29年7月5日からの大雨災害義援金 1件 20,000円</p> <p>・平成30年7月豪雨災害義援金 1件 20,000円</p> <p>・令和元年台風第15号千葉県災害義援金 8件 165,000円</p> <p>・令和元年8月豪雨災害義援金 28件 200,500円</p> <p>・令和元年台風第19号災害義援金 22件 252,183円</p> | 会員種別 | 件数 | 金額 | 会 員 | 77戸 | 155,000円 | 協力会員 | 1,715戸 | 891,000円 | 寄 付 金 | 0件 | 0円 | 合 計 | 1,792件 | 1,046,000円 |
| 会員種別 | 件数 | 金額 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 会 員 | 77戸 | 155,000円 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 協力会員 | 1,715戸 | 891,000円 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 寄 付 金 | 0件 | 0円 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合 計 | 1,792件 | 1,046,000円 | | | | | | | | | | | | | | | |

(16)阿蘇ブロック社協連合会事業

| 実施項目 | 事業目的 | 推進内容 |
|--------------|---|--|
| ①阿蘇ブロック社協連合会 | 「阿蘇やまびこネットワーク事業」の更なる推進を図り阿蘇管内の地域住民を支えるネットワークづくりを目指すと共に、阿蘇の福祉ビジョンを形成し、阿蘇ブロック社協のネットワークを基盤とした地域福祉活動の推進と、関係機関・協力団体との連携確立のため阿蘇ブロック社協連合会との連携に努めました。 | <p>1. 阿蘇ブロック社会福祉協議会連合会事業 阿蘇ブロック7市町村社協連合会の各種事業活動への参画</p> <p>(1)会議 ・総会 4/25 ・事務局長会議 7/5. 8/29. 11/26. 2/18 ・企画班及び災害ボランティア企画会議 5/31. 7/19. 8/20. 9/11. 10/28. 12/13. 2/12</p> <p>(2)研修会 ・事務局長、福祉活動専門員等研修会及び職員レクリエーション研修会 11/24 内容「ヨーガ療法でストレスケア」 ・社協職員専門性強化研修会「広報啓発強化研修会」2/25 こうすれば、広報誌がさらに読みやすくなる「伝え方」の手法</p> <p>(3)その他 ・阿蘇ブロック社協連合会ホームページリニューアルに伴う業者選定プレゼンテーションの実施 11/26 ※熊本計算センターとの受注契約 1/16 ※令和2年5月より運用開始予定 ・災害ボランティアセンター運営マニュアルの検討及び、災害時相互応援協定の確認</p> |

(17)法人運営・基盤強化

| 実施項目 | 事業目的 | 推進内容 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|---|---|-------------|----|------|----|------|------|------|-----------|------|---------|-------|-------------|----|---------|-------|-------------|
| ①財源の確保 | 社協会費・共同募金運動への住民の理解と協力をお願いし、社協の自主財源確保に努めました。 | <p>1. 社協会費の推進（8月） ※(別紙報告書 P.26)</p> <p>社協会費（普通会员 1,200 円・特別会員 3,000 円）(年額)の安定的な確保を図るため、地域福祉事業をはじめとした社協事業への住民の理解促進に努めた。</p> <p>①令和元年度社協会費実績 2,199,000 円 (1,714 戸)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>会員種別</th> <th>件数</th> <th>前々年比</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特別会員</td> <td>79 戸</td> <td>-7 戸</td> <td>237,000 円</td> </tr> <tr> <td>普通会员</td> <td>1,635 戸</td> <td>+27 戸</td> <td>1,962,600 円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,714 戸</td> <td>+20 戸</td> <td>2,199,000 円</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 赤い羽根共同募金（実績に伴う配分金確保・令和2年度配分予定額 3,654,782 円）</p> | 会員種別 | 件数 | 前々年比 | 金額 | 特別会員 | 79 戸 | -7 戸 | 237,000 円 | 普通会员 | 1,635 戸 | +27 戸 | 1,962,600 円 | 合計 | 1,714 戸 | +20 戸 | 2,199,000 円 |
| 会員種別 | 件数 | 前々年比 | 金額 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 特別会員 | 79 戸 | -7 戸 | 237,000 円 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 普通会员 | 1,635 戸 | +27 戸 | 1,962,600 円 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 1,714 戸 | +20 戸 | 2,199,000 円 | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------|---|---|-------|-----|----------|-------|-----|------------|-------|----|---|---------|----|---|-------|-----|---------------------------------|
| | | <p>3. 一般寄付（ニコニコ献金等）の推進と、香典返しによる寄付</p> <table border="1"> <tr> <td>・一般寄付</td> <td>28件</td> <td>512,067円</td> </tr> <tr> <td>・香典返し</td> <td>33件</td> <td>3,257,600円</td> </tr> <tr> <td>・指定寄付</td> <td>0件</td> <td>円</td> </tr> <tr> <td>・ニコニコ献金</td> <td>0件</td> <td>円</td> </tr> <tr> <td>【総合計】</td> <td>61件</td> <td>3,769,667円（前年比-33件 -3,928,966円）</td> </tr> </table> | ・一般寄付 | 28件 | 512,067円 | ・香典返し | 33件 | 3,257,600円 | ・指定寄付 | 0件 | 円 | ・ニコニコ献金 | 0件 | 円 | 【総合計】 | 61件 | 3,769,667円（前年比-33件 -3,928,966円） |
| ・一般寄付 | 28件 | 512,067円 | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・香典返し | 33件 | 3,257,600円 | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・指定寄付 | 0件 | 円 | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・ニコニコ献金 | 0件 | 円 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 【総合計】 | 61件 | 3,769,667円（前年比-33件 -3,928,966円） | | | | | | | | | | | | | | | |
| ②役員会・役員活動 | <p>本会の運営と、事業経営を確実に、適正に、また効果的に推進するため、必要な予算・決算、事業計画・事業報告等を審議・決定する会議等を開催するとともに、各種の社協事業への参画を推進しました。</p> | <p>1. 理事会の開催（年4回）6/6. 7/12. 2/3. 3/25 2. 評議員会の開催（年3回）6/21. 2/4. 3/27 ※（別紙報告書P27～P.28） 3. 監査 ・一般監査1回 5/28 4. 評議員選任・解任委員会の開催（年1回）6/6 5. 役員活動 ・社協事業への参画（初盆廻り、90才以上訪問、法人募金廻り、各種懇談会や研修会への参加等）</p> | | | | | | | | | | | | | | | |
| ③お客様相談センター（第三者委員会） | <p>福祉サービスの利用者等からの苦情等に対して、適切な対応・解決に努め、適正な運営に努めました。</p> | <p>1. お客様相談センター（第三者委員会） 福祉サービス利用者等からの苦情の適切な解決に努め、適正な運営を実施するために第三者委員3名を設置。 ・福祉サービス苦情解決研修会 10/17 ・福祉サービス苦情解決事業「第三者委員」研修会 12/19 ・委員より苦情件数 0件 ・福祉センター設置意見箱 0件</p> | | | | | | | | | | | | | | | |
| ④情報開示 | <p>経営や運営の透明性を高めると共に、社会福祉法人としての現状を開示しました。</p> | <p>1. 情報開示 組織経営、事業活動、財務等の情報を広報紙(社協だより)やホームページ等に掲載・開示することにより経営や運営の透明性を高めるよう努めた。 ・福祉センターのロビーに関係資料閲覧コーナー設置</p> | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑤職員の資質向上と危機管理 | <p>社会人、組織人としての基本的な資質や、多様化・高度化する福祉課題に的確に対応できる専門的な資質の向上を促し、業務遂行能力の高い職員の育成に努めました。</p> | <p>1. 職員の資質向上 ※現在の職員体制（組織図）※（別紙報告書P.29） 朝、夕の全体のミーティングを基本に、職員間の連携とチームワークの形成を図り、先駆的な福祉事業の展開と質の高い福祉サービスの提供に努めた。 また、業務を実施する上での専門的な資格取得、又は分野別研修課程等の受講へ積極的に取り組んだ。</p> | | | | | | | | | | | | | | | |

《資格取得状況》・社会福祉士5名 ・介護福祉士20名 ・精神保健福祉士2名
 ・保健師1名 ・看護師2名 ・准看護師5名 ・主任介護支援専門員2名 ・介護支援専門員7名 ・作業療法士1名 ・社会福祉主事6名 ・福祉住環境コーディネーター5名 ・訪問介護員1級4名 ・訪問介護員2級16名 ・保育士1名 ・栄養士1名 ・調理師5名 ※献立は管理栄養士へ委託

- ・福祉充実計画に基づく役職や職務内容に応じた研修、直面する課題別の研修・研究会など関係する外部研修会に積極的に参加し専門性を高めると共に、定期勉強会を計画的に行い全職員のレベルアップに努めた。
- ・職員一人ひとりが自己研鑽を積むと共に、それぞれが情熱とやりがいを持って働ける職場づくりを進めると共に、福祉充実計画及びキャリアパスの整備に伴う職員の処遇改善を図り、安定して働くことのできる職場環境づくりに努めた。
- ・職員定期勉強会（毎月第2火曜日 17:00~）
 勉強会委員の企画により、みんなに知ってほしい知識や技術などを伝える訓練として、毎月2名によるパワーポイント等を使った講義形式で実施。分かりやすさや伝え方などを評価するなど意欲を高めることに努めた。
- ・節電委員の企画により、全職員が毎月の電気料金を予想(前年比)するなど、節電意識を高めると共に業務中の節電の徹底に努めた。
- ・管理者会議（事務局、居宅、通所、訪問、包括、支え合い）の開催（随時）や、各事業所ごと学習会の実施(随時)
- ・阿蘇ブロック社協職員レクリエーション研修会 11/24（6名参加）
- ・毎朝、夕の全体ミーティングを基本に、職員間・事業所間の意識・連携強化を図り、各事業の円滑な推進と効果的な体制整備に努めた。
- ・福利厚生センター（ソウエルクラブ）加入
- ・職員健康診断の実施 5/9. 5/10
- ・各種委員業務と講師支援
 熊本県ボランティアセンター運営委員(3/3 熊本市)
 熊本県地域福祉推進サポーター(災害ボランティアセンター関係の講義)
 6/14 球磨村 8/24 菊池市 9/27 南小国町
- ・他県への職員派遣
 福祉避難所の運営について 8/29 山梨県南アルプス市社協
 熊本地震から学んだこと 3/9 滋賀県草津市未来防災セミナー

| | | |
|---------------------------|---|--|
| | | <p>2. 危機管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護事故をはじめとするあらゆる事故を想定防止するため、適切な職員体制の整備や施設設備等の点検改善を行うと共に、随時、事故防止等のための話し合いや、安心・安全に利用していただける介護サービス事業所づくりに努めた。 ・介護、業務マニュアル等の改善を図りつつ、適切で良質な介護サービスが提供できる環境整備に努めた。 ・交通安全運転管理者講習の受講（大津警察署）7/18 <p>①新型コロナウイルス感染防止対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の情報収集に努めると共に、関係役職員の感染防止策等の徹底と情報共有を図った。 ・介護事業への影響を防止するため、職員、デイサービスご利用者以外の施設の利用（一般入浴、各種会議や教室等）を2月29日より休止とした。 ※第1期3月15日まで、第2期(延長)3月31日まで、第3期(延長)4月30日まで、第4期(延長)5月7日まで、第5期(延長)5月31日まで ・来訪者には、インターホン設置による玄関前での対応を基本とし、手指消毒とマスクの着用、受付表の記入をお願いした。 ・館内（玄関先、ロビー、各部屋、トイレ等）に手指消毒液を配備し、ドアノブ等、手に触れる箇所の消毒を定期的実施。 ・LINE連絡システムの設定(管理者グループ8名及び、全職員グループ41名) ・3密（密接、密集、密閉）を避けるため、朝夕の職員全員でのミーティングを各管理者のみで玄関前で実施。 ・職員は、毎日の体温測定及び、行動・接触歴の記録を指示。また、緊急事態宣言発令に伴う関係職員の勤務内外の外出及び移動等について（要請発令） ・マスクや消毒液の在庫確保及び、確保購入ルートの情報確認に努めた。 |
| <p>⑥地域共生のむらづくり</p> | <p>地域住民をはじめ、あらゆる関係機関等との連携・協働を図りつつ、西原村の未来の福祉を創造的に推進し「地域共生のむらづくり」を進めるため、事業・活動の検討や先進地研修を行いました。</p> | <p>1. 地域共生のむらづくり推進</p> <p>住民相互の支え合い機能の強化や、公的支援と協働して住民が主体的に課題を解決できる体制づくり、また、包括的・総合的な相談支援体制づくりを進めるため先進的な研修会等への参加に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域共生社会推進全国サミット in 秋田 10/10~12」への参加(3名) <p>研修参加後、地域共生の村づくりを進めるための「現在の課題や今後、村全体で取り組むべきこと(これからの地域づくり戦略)」について、3月開催の理事会、評議員会にて報告。令和2年度の事業計画や、今後の具体的な取り組みにつなげていく。</p> |

| | | |
|--|--|---|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・年度計画や地域福祉活動計画の作成を進めるため、今後必要とされる社協事業の検討と既存事業の見直しを進めた。また、様々な各関係機関の取り組みについて情報収集、意見交換等を行い連携強化に努めた。 ・今後は、住民の新たな生活ニーズに基づく事業の開発や、各種制度・施策の動向に応じた必要な事業推進と発展強化策等を検討しつつ、行政計画である地域福祉計画と連動した地域福祉活動計画(中期発展計画)の策定を進める。 |
|--|--|---|

(18)指定管理者制度

| 実施項目 | 事業目的 | 推進内容 |
|-------------------|--|---|
| ①地域福祉センター 管理運営 | 住民ニーズを基本として、地域福祉センターの機能充実をより一層図るとともに、効果的・効率的な管理運営に努めました。 | <p>1. 地域福祉センターの管理運営</p> <p>多様化する住民ニーズに、より効果的かつ効率的に対応するため、地域福祉センターとしての機能を発揮しつつ、住民サービスの向上を図るとともに、施設の管理運営にはコスト意識を持ち経費等の削減に努めた。また、地域福祉センター機能を活かし、土曜日、日曜日、祝日の開館と、夜間9時まで開館することにより、積極的に利用していただき、住民の意識高揚と福祉活動に参加する機会づくりに努めた。(センター内掲示物の充実や、各種情報の提供)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議室等利用状況 436件(利用者数(延)4,601名) ※前年比-97件、-759名 (社協及び福祉関係団体の会議、各種相談、手話サークル、習字教室、ダンス、ヨガ教室、英会話教室、水道組合、同窓会、熊建労、地区会議等) ・一般入浴利用(PM5:00~9:00 まで) 入浴利用者数 (年間(延) 3,011名 ※前年比-317名 ※(別紙報告書 P.) ・通所介護入浴利用者数(年間(延) 7,845名 ※前年比-36名 <p>《清掃関係》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎朝 8 時 10 分~8 時 25 分まで全職員で実施 ・浴室内、毎週水曜日 PM5 時 15 分~PM6 時 15 分まで、職員 3 名で清掃 ・火元責任者(兼)整備管理者(2名)を決め、各室や敷地内の掃除、整理整頓など維持管理に努めた。 ・毎月第 4 木曜日(PM5 時 00 分~PM6 時 30 分)全体一斉清掃の日 ・ゴミ収集委託 (株西原エコ・グリーン) ・年末清掃及び粗大ゴミの搬出処分 12/17 (益城クリーンセンター) |

| | | |
|--|--|--|
| | | <p>《設備管理関係》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気設備点検(九州電気管理技術者協会熊本)年 6 回 ・館内フロアの掃除 年 3 回(ティーアンドワイ) ・消防用設備等点検 年 2 回(㈱高城広域防災) ・汚水処理施設点検管理 毎月 2 回(大阿蘇清掃社) ・自動ドア保守点検 年 4 回(熊本ナブコ㈱) ・ボイラー設備点検管理及び修理(ツルカメ企画事務所又は川幸産業㈱) ・浴槽レジオネラ菌等水質検査 年 2 回(熊本県予防医学協会) ・トイレ床の掃除(ティーアンドワイ) ・センター東側の側溝清掃(シルバー人材センター) <p>《改修工事等》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉センター駐車場舗装改修工事 ・ 〃 ろ過タンク及びろ過ポンプ取替工事 ・ 〃 薬浴系統ろ過ポンプ取替 ・ 〃 浄化槽汚水ポンプ取替 <p>2. 新型コロナウイルス感染防止対策 (P28 危機管理①にて掲載)</p> |
|--|--|--|

(19)その他の事業活動

| 実施項目 | 事業目的 | 推進内容 |
|-----------|------|---|
| ①その他の事業活動 | | <p>1. 視察研修の受け入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> 10/ 2 福岡県筑後市ちくご創年塾 24 名 10/ 3 阿蘇市ボランティア連絡協議会 10 名 10/30 大分県清川町ボランティア連絡協議会 20 名 11/ 6 芦北町地域福祉活動推進員 40 名 <p>2. 実習関係の受け入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊本学園大学ソーシャルワーク実習 8/8~9/30 (2 名) ※事前打ち合わせ会 7/13 実習懇談会 2/18 ・九州ルーテル学院大学 8/19~8/23 (1 名) ・尚綱大学 8/19~8/23 (1 名) <p>3. その他の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園、小学校、中学校の入学式、運動会への参列 |

| | | |
|--|--|---|
| | | <ul style="list-style-type: none">・村おこしゴルフコンペ 10/25 への協力(チャリティーホール・グリーンレディー2名)・復興支援のためのシルクスイートの芋苗送付支援(草津市玉川小学校へ)・村内の福祉施設(高齢者及び障がい者施設、保育園等)へマスクの配布提供(約 6,000 枚) ※熊本地震時の支援物資を活用 |
|--|--|---|

平成 31 年度(令和元年度) 社会福祉法人西原村社会福祉協議会の事業について、上記のとおり報告します。

令和 2 年 6 月 5 日

社会福祉法人 西原村社会福祉協議会 会長 日置和彦